文学部 真宗学科 教授
仏教教育センター長
一楽　真

文学部
教育・心理学科
第3学年
麓　真結

文学部 社会学科
第4学年
神田　恵

文学部 仏教学科
第3学年
南出　龍

土台になる「人間学」

大学で何を学び、どう生かすか――

困難を切り開いてきた人たちの生き方や、数々の社会問題を取り上げる「人間学」。第1学年の必須科目であり、学生一人ひとりの主体的な学びへと結びつける授業です。講義に決まった答えはありません。では、どのような学びが得られるのでしょうか。専攻の異なるそれぞれの学生の視点をとおしてひもときます。

「考える材料」になる学び

一楽　「人間学」がどんな授業だったか覚えていますか。

南出　人はなぜ生きているのか、どう生きていくべきか、そういった問題を考える授業でした。だからすぐに答えが得られるものではなく、日々を生きていく糧をもらうような授業だったと思います。

神田・麓　すごい。もうまとまってしまった。

一楽　（笑）。お二人はいかがですか、印象に残っている授業でもいいですよ。

神田　私は部落差別やハンセン病など、元々興味があった差別の問題について学べたのが良かったですね。

一楽　「人間学」ではさまざまなテーマを取り上げますが、社会や身近な話を盛り込むなどして、まずは何かに興味を持ってもらえるようにしていますからね。

麓　私は入学当初から小学校の先生になりたい一心だったので、将来のためになることは何でも吸収しようと思って授業を受けていました。なので、親鸞聖人やお釈迦様が、人々と同じ立場に立って物事を伝えられていたことから、自分が教員として持つべき姿勢を学ばせてもらいました。

一楽　うれしいですね。「人間学」はあくまでも「考える材料」。仏教の大学ですから仏教の話をしますが、それを知識にとどめるのではなく、自らの学びに生かすことが大事です。

先入観をいかに取り除くか

一楽　ところで、皆さんは今、どんなことに取り組んでいますか。

麓　私は小学校や不登校児が通う学校で子どもたちと一緒に活動する、学校ボランティアに参加しています。

一楽　何か「人間学」で学んだことが生かされていますか。

麓　視点の持ち方ですね。子どもたちの輝いているところを見つけるために、いろんな角度から一人ひとりの個性を理解するようにしています。

一楽　何事も先入観を持たずに見ることの大切さを、「人間学」をとおして学んでもらえたようですね。南出さんはいかがですか。

南出　僕は元々、人一倍物事を深く考えすぎてしまう性格で、人はなぜ自分の考えに固執するのか、そのせいでだれかを傷つけたりするのに……というようなことをずっと考えていたんです。

一楽　何か変わりましたか。

南出　相手に合わせて法を説いたブッダの「対機説法」をとおして、自分自身を見つめ直すことができました。寺を継ぐために学んでいることもあり、仏教を学ぶ入口としては最適でしたね。

一楽　良いきっかけとなって何よりです。

振り返って得られる気づき

一楽　神田さんは「人間学」を受講してからしばらく経ちますが、いかがですか。

神田　3年前のことになるので、私のなかに何が残っているか曖昧です。

一楽　そう思うのはなぜですか。

神田　少し前、映画で福祉を学ぶ自主ゼミで、「多磨全生園」というハンセン病療養所へフィールドワークに行ってきたんです。『あん』という映画を見たことをきっかけに、ハンセン病について考えることとなり、差別の歴史を中心に調べ、理解を深めてから行きました。

一楽　「人間学」で差別問題に興味を持ったことと繋がっていますね。

神田　はい。その際、元患者の方から聞いたお話は、事前学習で理解していたはずのものとはまったく違ったんです。いかに自分が知っていることや経験だけで物事を考えていたのかを思い知らされました。1年生の時の人間学のノートを読み返してみると、物事の捉え方などヒントになることをたくさん教えてもらっていたのに残念です。

一楽　でも良かったですね。後から気づくこともあるのが「人間学」です。その気づきが大きな成長に繋がったようですね。

「人を育てる大学」だからこそ

一楽　「人間学」の学びはすぐに結果が出るものではないかもしれませんが、皆さんのなかにちゃんと蓄積されているようですね。建学の理念にもありますが、大谷大学は「人を育てる大学」です。その理念を最初に後押しするのが「人間学」なのでしょう。

神田　授業のおかげで、私は人の多様性を認めることの大切さに気づく、ひとつのきっかけになっていたと思います。

南出　僕は「とらわれの心」、執着する心をなくしたいと思うようになりました。

一楽　大学は「どう生きるか」をしっかり考え、自ら進む道を見つける場所です。社会には「人材」という言葉がありますが、役に立つか立たないかを超えた「人間力」を鍛えてほしいと願っています。

麓　その答えを見つけるのは簡単ではありませんが、学びがいがありますね。

一楽　どんな世の中になっても、乗り切っていける「土台」となる部分ですからね。皆さんの視野が今後どのように広がっていくか、楽しみにしています。